

事業名: 埼玉医科大学病院構造改革推進事業

事業申請者: 学長 竹内 勤 事業責任者: 大学病院長 篠塚 望

事業概要

大学と病院の連携・ガバナンスを強化、構造改革を推進、医療DXやAI導入、臨床データ基盤整備で診療・教育・研究データを共有、業務効率化し医師の教育・研究時間を確保。専門研修人材管理体制整備、タスクシフト等、地域との協議の場を通じ、病院運営・診療・教育研究の質を向上、持続可能な運営と高度専門人材の育成・供給体制を強化

ビジョン

従来の診療体制を抜本的に見直す病院運営の構造転換を実行、医師の診療負担を軽減、教育・研究工フォートへと大胆に転換

- 臨床データ基盤による診療・教育・研究の三位一体改革
- タスクシフトと組織横断的診療センター化の推進
- 高度専門人材の育成・管理体制の統合
- 地域医療ガバナンスの主導:

現状

- 県内唯一の医育機関・地域中核の医療系総合大学。教育・研究・診療に三位一体となり取り組む体制
- 埼玉県は人口10万人あたり医師数が全国最少189.1人、高齢化が進み、かつ医師不足が深刻、医師不足・診療科偏在対策の最前線

課題

医師の**業務負荷軽減**、高度医療**人材確保**、専攻医や専門医の定着、地域への**医師供給**、教育・研究のための**時間の確保**

構造転換と本事業の取組

大学病院運営改革

病院長のガバナンスの強化
病院経営企画室機能強化
マネジメント機能強化のDX
大学・大学病院の連携強化
医師の負担軽減・時間確保
人材確保と処遇改善

財務・経営改革

医療収入増への取り組み
財務基盤強化・外部資金獲得
計画的な施設・設備整備

診療改革

医療DXの推進
埼玉県との連携強化
地域医療機関との連携強化
医師の労働時間短縮
地域医療機関への医師派遣

専門研修人材育成管理システム

専門研修プログラム・専攻医サポート管理
業務(診療・教育・研究)把握・研究実績管理
卒業生(地域枠含む)の動向の把握

研究改革

医師の研究時間の確保
研究支援人材保(URA,CRC)
臨床研究推進体制の強化

臨床研究支援強化

病院群臨床DWHの導入
臨床情報分析支援システムの導入
臨床研究支援人材の拡充

教育改革

専門研修プログラムの充実
診療参加型臨床実習の実質化
地域医療機関との連携強化
屋根式教育の推進

協議の場・地域医療の支援体制

埼玉県、地域医療機関との連携
地域医療連携法人設立、
地域医療推進会議の発足

AIを用いた診療支援

診療支援AIシステムの導入
診療工フォートの軽減
→ 教育研究工フォートに転換

総合診療医育成

総合診療医育成支援センター
教育支援・協力
家庭医、プライマリ・ケア

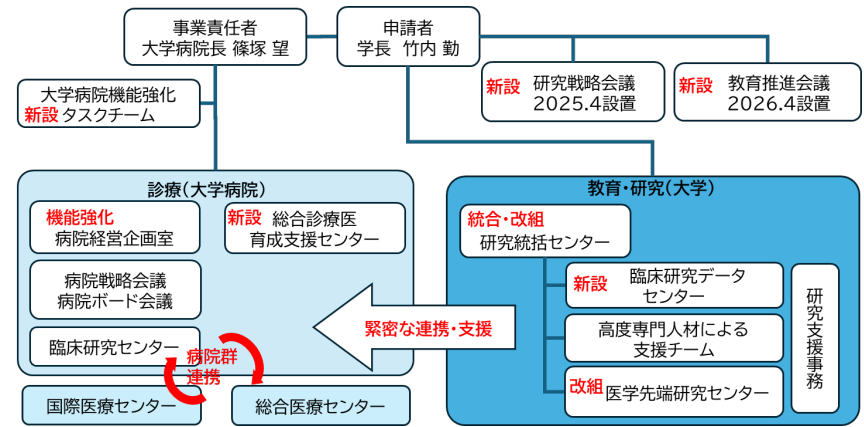
埼玉県

埼玉医科大学病院

埼玉医科大学病院群

成果目標

実施体制



赤枠: 補助事業による整備

- 構造改革による研究工フォートへの転換 15%→25%へ
- タスクシフトのための特定看護師確保と養成 14名→35名へ
- 医師の診療時間 年1.3万時間短縮 初診診療 57.5分→35分へ

- 臨床試験・臨床研究の新規研究計画 201課題→260課題(+30%)
- 地域医療機関へ転籍する医師数 23人→35人(+50%)
- 専門医療を担う専攻医の確保と育成 98人→130人(+30%)

本事業終了後における取組の持続性の担保 補助期間終了後も体制を維持する

- 大学病院機能強化タスクチームによる機能強化の取組を検証・改善提案を持続、システム維持・更新に掛かる予算は、法人了解済み
- 研究統括センター等の新組織を通じ、本事業で整備された臨床データ基盤を他大学との共同研究事業へ積極的に活用する
- 外部資金の獲得を加速、事業終了後も研究支援体制を維持・発展させるための財源として確保する